

麻布大学ティーチング・ポートフォリオ

所属 獣医学科 職階 准教授

氏名 圓尾拓也

麻布大学では、教育研究活動その他大学の諸活動を恒常的に自己点検・評価し、その結果を検証して改善に結び付けることにより、教育の質保証を行う観点から、各教員が『ティーチング・ポートフォリオ』を作成しています。ティーチング・ポートフォリオの構成及び更新サイクルは以下のとおりです。

1. 教育の責任・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3年
2. 教育の理念・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3年
3. 教育の方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3年
4. 教育の方法の改善・向上を図る取組・・・・・・・・毎年
5. 学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組・・・毎年
6. 学生の学修成果向上を図る取組・・・・・・・・・・・・・・・・毎年
7. 指導力向上のための取組・・・・・・・・・・・・・・・・3年
8. 今後の目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3年

1. 教育の責任

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年2月

1994年に麻布大学獣医学部を卒業し獣医師になりました。小動物臨床、腫瘍認定医として腫瘍診療、放射線取扱主任者として放射線治療に従事してきました。以上のことから分かる通り、エビデンスに基づく治療を行うとともに、オーナーの希望に添えるよう努めています。主として実習を担当していますので、その点を踏まえて臨床経験を通して「学生の学習成果を高めること」を目的としています。

科目名	学科・専攻	単位種別	配当年次	受講者数(単位:人)
獣医放射線学	獣医	必	2	
獣医総合臨床実習	獣医	必	5	
小動物病院実習	獣医	選	6	
小動物臨床実習	獣医	必	5	
総合獣医学	獣医	必	6	

2. 教育の理念

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

国家試験の合格は重要ですが、それを別とすれば、大学は自身で学びたいことを選択し、主体的に学ぶ場であると考えています。その延長として就職があります。私は小動物臨床を教えています。その他の進路も同様に重要であり、どの分野でも学生が実力を発揮できるようになって欲しいと願っています。また、不本意な出来事があっても自ら考え、適切な居場所を見つける力を養ってほしいと考えています。専門家として自立するためには、ただ教えるだけでは不十分であり、自ら道を切り開く姿勢が必要です。そのために、教わることはもちろん重要ですが、それ以上に「自身で考える力」を育むことが不可欠です。自ら考える力を養う足掛かりとして、まずは質問を繰り返しながら自身の実力を理解し、主体的に考える習慣を身につけて欲しいと考えます。そのために、1)基礎学力の習得、2)わからないことを認識し、自ら調べ、それを自分の言葉で説明できる力の習得を重視します。

基礎学力をつけることで国家試験受験に向けた準備が整います。国家試験に取り組むには、一定の実力が必要だからです。また、わからないことを言語化することで、調べる力が養われます。これらを通じて、社会に貢献する獣医師を育成することを目指します。

3. 教育の方法

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年2月

担当する授業や実習は放射線治療を中心としたものとなっています。目的をはっきりさせ、症例提示をすることで学習効果は高まると考えています。目的意識を持って学習することで習得できることも多いと考え、以下のことを行なっています。

1) 基礎学力の習得

a. 写真の多いスライドを用いた授業

臨床例を多く提示することで自身が獣医師となった時のことを考えて聞くことができると考えています。また、スライドの文字数を少なくすることで見やすく、一目で理解しやすいようにしています。

b. 事前の小テスト

復習の問題を取り入れることで、授業にあたっての基礎知識を復習する。また、授業内容の問題を入れることで、授業の要点を理解することができると考えています。授業の終わりに解説を行うことで重要なところを再度することで知識の習得に役立つと考えています。

また、臨床実習においては以下のように実技を行うよう取り組んでいます。

c. CTの読影では特定の写真のみの提示ではなく動画による複数の画像を用いた症例提示

CTの特徴の一つに複数の画像の確認による病変の確定があります。本来ですと全ての画像を提示したいのですが、ダウンロード容量の関係で提示できないので複数の条件の動画に変換し症例提示しています。

d. 病院実習においては、オーナーの許可が得られたものについては、規則どおり監督下で診療補助してもらっています。座学、実習で習ったことを実際の症例でするには心配りが必要です。その辺りを含めて習得してもらえればと考えています。

2) わからないことを認識し自ら調べる習慣をつけ自分の言葉で説明できる

a. 実習でもなるだけ質問をするようにし、自身で考えるように仕向けています。答えられないことは昼食の休みに調べ、実習最後に答えてもらうようにしています。

b. 卒業研究では、論文を読むだけでなく、論文の構造、雑誌の評価を含めて質問することで信頼に値する情報源かどうか、についても教育するようにしています。

以上のことを踏まえ、基礎学力の定着と、調べて自分の意見が言えるように心がけています。

(1) アクティブ・ラーニングについての取組

有

復習課題および問題提示。

(2) ICTの教育活用

有

資料の事前配布、動画提示

4. 教育の方法の改善・向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

(1) 教育（授業及び実習等）の創意工夫

B

受け身にならないよう、質問を繰り返し、考えるよう仕向けている。

(2) 学生の理解度の把握

B

小テスト、直接質問して理解しているか確認。

(3) 学生の自学自習を促す工夫

B

問題提示

(4) 学生とのコミュニケーション

B

解答の配布

(5) 双方向授業への工夫

C

対面ではしていますがオンラインではできていません。

(6) 国家試験対策の取組 (獣医学科・臨床検査技術学科)

A

過去問の分析

5. 学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

(1) 授業評価アンケート結果の授業への反映

複数教員の授業のため、反映が難しい。

(2) (1)の結果による改善・向上の具体的な成果又は課題

一部の学生のクレームに心が痛みます。

(3) (2)を踏まえた次年度の取組

丁寧な説明を心がけています。

6. 学生の学修成果向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

(1) 現在までの学生の成績向上に資する取組及びその成果並びに今後予定している取組

国家試験を念頭に授業内容を組み替える

(2) (1)の取組を通じて改善・向上が図られた学生の学修成果並びに当該取組 に対して得られた学生及び第三者からの評価又はフィードバック

フィードバックはありません。

7. 指導力向上のための取組（FD研修参加等）

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年2月

参加できるときはFD研究会に参加するようにしています。また、他大学の教員と情報交換を行い、参考にしています。

8. 今後の目標

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年2月

短期的には、機器が医療と同じレベルに追いついたため、自宅での学習が容易になるような課題提案を心がけたい。また実習中の簡単な注意書きについては、メモをはったりQRコードを用いたりして記憶喚起に努めたい。長期的には、学生が実施することについて観察し、どうしてできないかを明らかにしたい。それにより教え方を改善する方向を模索したい。